

「日本 ESD 学会」設立趣意書

今、私たちは生物多様性劣化や気候変動、貧困や地域格差、社会的公正や人権侵害、難民や地域紛争などをはじめとする地球的諸課題に直面しています。これらの課題は地域の課題と密接につながっており、私たちの生活に多大な影響を及ぼしています。世界的には 1970 年頃から人類社会存亡の危機が意識されるようになり、1980 年代後半に持続可能な開発(SD:Sustainable Development)の概念が強調されました。さらに、1992 年の地球サミット(リオ・デ・ジャネイロ)と 2002 年のヨハネスブルグ・サミットを通じて、持続可能な社会を実現するために、現在社会を生きるおとな達と次世代の主人公となる子ども達を含めた持続可能な開発のための教育(ESD:Education for Sustainable Development)の重要性が強く認識されるようになりました。

ヨハネスブルグ・サミットで提唱され、2005 年から始まった国連 ESD の 10 年(DESDE)は 2014 年に日本で開催された最終年合で幕を閉じましたが、その世界会議で開始が発表されたグローバル・アクション・プログラム(GAP)と、2000 年のミレニアム開発目標(MDGs)の後継として 2015 年の第 70 回国連総会で採択された持続可能な開発のための目標(SDGs)は、環境、経済、社会および文化を調和させた持続可能な社会の実現に向けたさらなる取り組みの方向性を示しました。

持続可能な社会を実現するために ESD の重要性は増すばかりですが、ともすれば各人の立場と理念に基づく実践、政策アジェンダへの位置づけ等の活動が先行し、実践を深化させるための研究は関連する専門領域で個別に取り組まれているのが現状です。環境、経済、社会、文化などが相互に関係している SD の課題は複合的であり、従って ESD の研究も実践と結合した様々な専門領域の学際的・複合的研究であることが求められます。環境、国際理解、開発、人権、平和、学校、社会、各教科等の教育に関わる学協会において組織的、個人的に ESD 研究に携わっている研究者による協働を活性化させることによって、「学」としての ESD の方向性を探究すること、実践と結んだ情報交換と理論研究、実践への還元が必要です。

ESD は世代を問わず、学校、市民、企業、行政など多様なステークホルダーが連携して、現代社会の課題を自らの問題としてとらえ、持続可能な社会を創造するための価値観や行動を生み出す変容の教育です。これを継続的に発展させるためには、活動の交流にとどまらず、ESD の担い手の育成、実践者の経験をベースにした研究の深化や研究成果を活かした実践が不可欠です。

私たちは、ESD の理論的・実践的研究、実践の情報交換等を行うことにより持続可能な社会の創造に貢献することを目的として、研究者、教育者、学生、市民がその立場や分野を越えて協働する「日本 ESD 学会」を設立することを呼びかけます。

ESD を推進してきた皆様、ESD を実践している皆様、ESD に関わる研究者の皆様、そして ESD に関心あるすべての皆様に、「日本 ESD 学会」にご参加いただきますようお願い申し上げます。

2016 年 12 月 18 日

「日本 ESD 学会」設立 呼びかけ人一同

呼びかけ人(50 音順)

浅井孝司、阿部 治、市瀬智紀、岩本 涉、及川幸彦、加藤久雄、木曾 功、木邑優子、工藤由貴子、小金澤孝昭、小澤紀美子、佐藤真久、重 政子、柴尾智子、鈴木克徳、関 礼子、多田孝志、田中治彦、棚橋 乾、手島利夫、中澤静男、永田佳之、長友恒人、福井昌平、見上一幸、三隅佳子、安田昌則、湯本浩之、米田伸次